



# サハリン樺太史研究年報

## 2023 年

2025 年 06 月 04 日

北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室

# —サハリン樺太史研究年報 2023 年—

## 目次

- 研究動向
- 研究会・関連シンポジウム等
- 研究成果刊行物
- 研究プロジェクト

## 年報刊行について

サハリン樺太史研究会は 2008 年 7 月に発足し、2011 年に公式 Web サイトを開設、その後、『サハリン樺太史研究会年度活動報告書』の刊行を続けてきましたが、当初から編集を担ってきた中山大将は 2022 年度版を最後に『年度活動報告書』の編集を辞することになりました。これは、2023 年に同研究会の新たな発展のために、同研究会発足時からのメンバーである中山が世話人会からぬけることにしたからです。

とは言え、毎年のサハリン樺太史研究の進展を記録していくことには大きな意義があるため、同様の作業は行ない続けたいと考え、『サハリン樺太史研究年報』を編集し、北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室として刊行することにいたしました。

本『年報』と旧『報告書』の大きな違いとしては、年度ではなく年ごとの編集（ただし研究費の情報は年度ごと）、同研究会例会以外の関連学術イベントの情報の記載、同研究会の会員・非会員の区別の撤廃が挙げられます。

本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ます。また、正確性は期していますが、なるべく多様な情報を載せるため網羅性や完全性はあまり重視しないという編集方針をとることにしました。たとえば、学術イベントについては把握しきれていないものもあることは承知したうえで把握できたものだけを記載しておりますし、文献なども書誌情報が不完全でも把握しきれた範囲の情報を記載しています。

本『年報』によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内外におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと願っております。

2025 年 06 月 04 日

中山大将

（北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室准教授）

## —研究動向—

### 原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編著『日本帝国の膨張と縮小』刊行

原暉之・元会長が代表を務めていた科研共同研究を基にした論文集『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』が北海道大学出版会スラブ・ユーラシア叢書第 16 巻として刊行された。同叢書第 10 巻として原暉之編著『日露戦争とサハリン島』（2011 年）に刊行されており、「戦争」がサハリン島に与えた影響を多面的に論じる研究書としてこれに続くものである。とりわけ、本書は日本側では研究の少なかった「北サハリン」「北樺太」について詳細に論じた意義を持つと言える。

### 富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防』、日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』刊行

富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防』（みすず書房）と、白木沢旭児・現会長が代表を務めていた科研共同研究を基にした論文集『日ソ戦争史の研究』（勉誠出版）が刊行された。サハリン島をめぐる近代第三の「戦争」である日ソ戦争について外交・軍事にとどまらず、多様な分野、主体、地域、時代から論じることで、従来は「ソ連対日参戦」と表現されてきた「日ソ戦争」がひとつの研究テーマとして確立したと言えよう。なお、前者についてはサハリン樺太史研究第 63 回例会で書評会を実施した。

### パイチャゼ・スヴェトラナ、ジョナサン・ブル編『東アジアにおける帝国の終焉と人の移動』刊行

パイチャゼ・スヴェトラナとジョナサン・ブル（ともに北海道大学）の編による英語論文集『東アジアにおける帝国の終焉と人の移動』が刊行された。日ソ戦争以降のサハリンをめぐる移動（引揚げ、帰国）や〈記憶〉についての研究論文も多く収録されているほか、テッサ・モーリス＝スズキやディン・ユリアなど国外からの執筆者も名を連ねている。樺太戦後史の国際研究の成果と言えよう。

### 台湾の研究者による研究報告

サハリン樺太史研究会の第 68 回例会では、2 名の在 Taiwan 研究者による研究報告が行なわれた。楊素霞（台湾国立政治大学）は樺太の初期植民地体制について、劉淑如（台湾国立宜蘭大学）は長見義三の作品『シシャムの教え』について論じた。いずれの研究も、日本国内の研究の後追い研究ではなく、独自の観点と資料に基づくものであり、樺太史研究の国際的拡がりを示す研究報告となった。

なお、両研究者と同研究会のつながりは、サハリン樺太史研究会 10 周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」（2018 年 12 月 1 日）の内容が掲載された『北方人文研究』第 13 号（2020 年）を両者が目にし、その中の中国語圏におけるサハリン樺太史研究の動向をまとめた論稿を見つけたことを始まりとしており、サハリン樺太史研究会の活動が国際交流の輪を拡げた一例と言える。

## —研究会・関連シンポジウム等—

### ■サハリン樺太史研究会第 64 回例会

日時:2023 年 02 月 18 日

場所:zoom によるオンライン方式

- 報告 対樺太輸送経路の形成と稚内の港湾都市誌 宗谷(本)線と鉄道省稚泊航路の形成をめぐって  
.....三木理史(奈良大学)
- 報告 1950 年代の国際政治と「スターリン・ノート」 講和問題をめぐる「グローバル・リンケージ」  
.....清水聡(開智国際大学)

### ■サハリン樺太史研究会第 65 回例会

日時:2023 年 03 月 26 日

場所:zoom によるオンライン方式

- 報告 池田善長(著)『秘 昭和十八年度 樺太ニ於ケル農業技術水準並ニ其ノ発展ニ関スル調査報告書』について.....竹野学(北海商科大学)
- 報告 工藤信彦『樺太覚書』の概要と意義.....中山大將(釧路公立大学)
- 共催 人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業「東ユーラシア研究」  
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点  
日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「冷戦期の日韓の歴史問題と越境的市民運動の研究」  
(研究課題番号:22H00693)

### ■サハリン樺太史研究会第 66 回例会

日時:2023 年 04 月 15 日

場所:zoom によるオンライン方式

- 報告 樺太における地方制度の制度設計.....須川忠輝(三重大学人文学部専任講師)
- 報告 樺太海豹島におけるラッコ・オットセイ猟業の展開 .....高橋亮一(國學院大學大学院文学研究科博士後期課程)
- 主催 サハリン樺太史研究会
- 共催 日露関係史研究会、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)  
「日露国境の変遷とその影響に関する学際的研究:『歴史国境学』創出への挑戦」(研究代表者:醍醐龍馬)

 近現代史研究会・名古屋歴史科学研究会合同例会

日時:2023 年 05 月 06 日

場所:名古屋大学大学院人文学研究科 第 127 講義室および Zoom によるオンライン方式

(以下、サハリン樺太史研究関連のみ掲載)

報告 植民地樺太脱軍事化の政治過程 - 日露戦争後の帝国再編の中で……………野善斗(名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程)

共催 近現代史研究会、名古屋歴史科学研究会

 同志社大学人文科学研究所第106回公開講演会

企画:越境者をめぐる<故郷>と<境界>:個の物語から考える

日時:2023 年 07 月 08 日

場所:同志社大学良心館 407 室および Zoom によるオンライン方式

(以下、サハリン樺太史研究関連のみ掲載)

報告 慰霊碑が語ること語らないこと:日ソ戦争が生み出した樺太住民の故郷喪失……………中山大将(釧路公立大学経済学部)

主催 同志社大学人文科学研究所

共催 同志社大学人文科学研究所第21期17研究

「コミュニティの維持をめぐるつながりと境界の動態に関する比較研究:人の移動・交渉・葛藤」

後援 地域研究コンソーシアム(JCAS)

 オンライン観光創造フォーラム第 23 回(2023 年度第 7 回)

企画:樺太観光を再考する:植民地におけるモノと人のネットワーク

日時:2023 年 08 月 23 日

場所:Zoom ウェビナー

(以下、サハリン樺太史研究関連のみ掲載)

報告 帝国日本における観光の役割の再検討:近年の研究を踏まえて……………平井健文(北海道教育大学)

報告 朝鮮から樺太に渡ったモノ:朝鮮料理屋と朝鮮焼酎を事例に……………李俊榮(北海道大学・漢陽中学校)

評者 池田 貴夫(北海道博物館)

評者 パイチャゼ・スヴェトラナ(北海道大学)

共催 北海道大学観光学高等研究センター

北海道大学メディア・ツーリズム研究センター

 サハリン樺太史研究会第 67 回例会

日時: 2023 年 09 月 16 日

場所: 北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(W 棟) W202 室および Zoom によるオンライン方式

書評会 原暉之・兎内勇津流・竹野学・池田裕子編著

『日本帝国の膨張と縮小: シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年

評者 小林瑞穂(京都女子大学)

塩出浩之(京都大学)

主催 サハリン樺太史研究会

 続・日本の中の異文化研究会第 1 回

日時: 2023 年 11 月 29 日

場所: Zoom

報告 本州アイヌの在りよう和蝦夷錦の受容をめぐって……………瀧本 壽史(弘前大学)

報告 元・明・清代の中国史料にみえるカラフトアイヌ……………中村 和之(函館大学、法政大学)

司会 小口 雅史(法政大学)

主催: 法政大学国際日本学研究所

 サハリン樺太史研究会第 68 回例会

日時: 2023 年 12 月 02 日

場所: Zoom によるオンライン方式

報告 樺太植民地統治体制の構築: 原敬の政策論を中心として……………楊素霞(台湾国立政治大学)

報告 長見義三『シヤムの教え』について……………劉淑如(台湾国立宜蘭大学)

主催 サハリン樺太史研究会

## —研究成果刊行物—

(五十音順:日本氏名以外もカナ表記順)

- 【雑誌】相庭達也「ある屯田兵子弟が体験したサハリン占領戦とその後:『軍隊手帳』の記載に沿って」『北海道史研究協議会会報』第 112 号、2023 年 6 月 15 日。
- 【論集】浅野豊美「共通利益による体制融和構想の破綻:ソ連の計画経済と北サハリン」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【資料】ウィリアム・アトキンズ(山田文訳)『帝国の追放者たち:三つの流刑地をゆく』柏書房、2023 年 7 月。
- 【論集】天野尚樹「日ソ戦争樺太戦—八方山=ハラミトーギのソ連兵」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。
- 【論集】天野尚樹「保障占領のポリティクス:帝国日本の統治とサハリン島民」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【著編】原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】池田裕子「1925 年の樺太における「国民統合」:皇太子の行啓を中心に」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】井竿富雄「日港事件と日本の政治・社会」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】井澗裕「樺太国民義勇戦闘隊—国民皆兵の歪みとその余波」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。
- 【論集】井澗裕「サハリン軍事占領と司法:「裁判の公平」「司法権の独立」をめぐる」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【雑誌】中山大将、巫靚「日清戦争と日露戦争における〈残留〉の比較史研究:台湾島とサハリン島における境界地域史」『釧路公立大学紀要人文・自然科学研究』第 35 号、2023 年 3 月 19 日。
- 【雑誌】浦洋子、太田満「樺太から満州、そして生琉里から鈴原へ(続)浦洋子さんの人生」『生きる:いのち・人権・平和の交流誌』第 47 号、2023 年 8 月。
- 【雑誌】榎森進「日本領“樺太”時代の同地の住人とアイヌの人々に関する一考察」『東北学院大学東北文化研究所紀要』第 55 号、2023 年 12 月 25 日。
- 【雑誌】岡本愛子「日本の北を旅した人々(3)クルーゼンシュテル:樺太を描く(前編)」『地理』第 68 巻第 3 号、2023 年 3 月。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【雑誌】岡本愛子「日本の北を旅した人々(3)クルーゼンシュテルン 樺太を描く(中編)」『地理』第 68 巻第 4 号、2023 年 4 月。
- 【雑誌】岡本愛子「日本の北を旅した人々(3)クルーゼンシュテルン 樺太を描く(後編)」『地理』第 68 巻第 7 号、2023 年 7 月。
- 【資料】梯久美子『サガレン：樺太/サハリン境界を旅する』KADOKAWA、2023 年 7 月 30 日。
- 【雑誌】梯久美子「樺太戦を記録した必読の名著[金子俊男著『樺太一九四五年夏：樺太終戦記録』]」『ちくま』第 629 号、2023 年 8 月。
- 【雑誌】角幸博「南サハリンにおける日本期建築調査回想」『民俗建築』第 163 号、2023 年 5 月。
- 【著編】金子俊男『樺太一九四五年夏：樺太終戦記録』筑摩書房、2023 年 7 月。
- 【論集】神長英輔「革命・内戦・干渉戦期のサハリン州の漁業」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】Kim Yehbohn Lacey, “The ‘Remembered’ Sakhalin Koreans in the South Korean Press, 1946-1980,” ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【雑誌】木村由美、西崎純代「『引揚者在外事実調査票』の資料紹介：歴史資料としての意義とデータ活用の可能性」『立教経済学研究』第 77 巻第 2024 年号、2023 年 10 月 20 日。
- 【雑誌】木村由美「樺太からの引揚者と戦後北海道」『北海道史研究協議会会報』第 113 号、2023 年 12 月 20 日。
- 【論集】倉田有佳「北サハリンから日本へ避難・移住したロシア人：1924－1925 年」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】黒岩幸子「ソ連による占領統治下の千島社会」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。
- 【著編】黒川創『世界を文学でどう描けるか』図書出版みぎわ、2023 年 3 月。
- 【著編】黒川創「『日本語』の文学が生まれた場所：極東 20 世紀の交差点」図書出版みぎわ、2023 年 12 月。
- 【雑誌】A・I・コスタノフ(ダリア・コジェブニコワ訳)「樺太庁の史料館(公文書館)の歴史から(1945 年 -1947 年)」『北方人文研究』第 16 号、2023 年 3 月 25 日。
- 【論集】米家泰作「土地被覆からみた日本帝国」中島弘二編『帝国日本と森林：近現代東アジアにおける環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。
- 【雑誌】佐藤正則、三代純平「複言語・複文化話者としてのサハリン残留日本人：複言語・複文化における仲介という観点から」『言語政策』第 19 巻第 1 号、2023 年 3 月 31 日。
- 【資料】重延浩『ボクの故郷は戦場になった：樺太の戦争、そしてウクライナへ』岩波書店、2023 年 8 月。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。



- 【論集】ヤロスラヴ・シュラト「日ソ国交正常化交渉とサハリン問題：北京会議と日ソ基本条約の締結（1924－25 年）」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】瀬川拓郎「サハリンアイヌのミイラ習俗と縄文時代の葬制」春成秀爾編『自然史と旧石器・縄文考古学』雄山閣、2023 年 6 月。
- 【論集】醍醐龍馬「日露戦争後の樺太境界画定委員会」醍醐龍馬『小樽学：港町から地域を考える』小樽商科大学出版会、2023 年 3 月 31 日。
- 【雑誌】高橋亮一「北方海域をめぐる日露戦中・戦後の日本外交：樺太占領と海獣保護を中心に」『東洋学報』第 104 巻第 4 号、2023 年 3 月 17 日。
- 【雑誌】竹口智之「ロシア極東地域における日本語教育史：日本語ネイティブ教師の視点から」『兵庫教育大学研究紀要』第 63 号、2023 年 9 月。
- 【著編】武田修『樺太アイヌと常呂』常呂町郷土研究同好会、2023 年 3 月。
- 【雑誌】竹野学「翻刻：池田善長(著)『秘 昭和十八年度 樺太ニ於ケル農業技術水準並ニ其ノ発展ニ関スル調査報告書』その 1」『北海商科大学論集』第 12 巻第 1 号、2023 年 2 月 20 日。
- 【著編】原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】竹野学「北サハリンに進出した日本人商工業者の活動と引揚げ」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】竹本太郎「本帝国の森林管理：統計資料を用いた数量的な把握から」中島弘二編『帝国日本と森林：近現代東アジアにおける環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。
- 【著編】種石悠『オホーツク文化の考古学：辺境から眺める古代日本』銀河書籍、2023 年 5 月 5 日。
- 【論集】田村将人「1920 年代のサハリン先住民族の移動と国境の関係性：樺太庁による「オタスの杜」集住化」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【資料】中国残留孤児援護基金編『中国・樺太残留邦人とともに：「公益財団法人中国残留孤児援護基金」の 40 年』中国残留孤児援護基金、2023 年 8 月。
- 【論集】T. Tsumagari & Y. Yamada, "Uilta," eds. A. Vovin, J. A. Alonso de la Fuente, & J. Janhunen, *The Tungusic Languages*, Routledge, 2023 年 8 月。
- 【雑誌】ユリア・ディン(天野尚樹・宋恵媛訳)「ソ連崩壊後のサハリン朝鮮人」『コリアンスタディーズ』第 11 号、2023 年。
- 【雑誌】ユリア・ディン(ヴェニアミン・テン訳、中山大将監修)「サハリン朝鮮人研究の資料と研究：露日韓英各国語の研究状況」『境界研究』第 13 号、2023 年 3 月 31 日。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【論集】Yulia Din, “The social movement for Sakhalin Korean repatriation after the Second World War: the establishment of the Korean Communist party,” ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【著編】原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】原暉之、兎内勇津流「本帝国膨張と縮小のモデルとしての北サハリン占領」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】兎内勇津流「尼港事件はどのようにして起こったか：三月武力衝突とその前後」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】Ayako Tominari, “Hikiagesha and other terms for returnees in the minutes of the National Diet of Japan,” ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【著編】中村弘行『寒天』法政大学出版局、2023 年 7 月。
- 【論集】中山大将「日ソ戦後のサハリン残留日本人問題—ソ連地域未帰還者問題の中の樺太旧住民」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。
- 【論集】中山大将「北海道・樺太と帝国林業：排除から協力へ」中島弘二編『帝国日本と森林：近現代東アジアにおける環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。
- 【論集】中山大将「北サハリンと〈樺太〉農林資源問題：〈北樺太〉農林資源調査と 1930 年代の木材輸入を中心に」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【雑誌】中山大将、巫靚「日清戦争と日露戦争における〈残留〉の比較史研究：台湾島とサハリン島における境界地域史」『釧路公立大学紀要人文・自然科学研究』第 35 号、2023 年 3 月 19 日。
- 【雑誌】ユリア・ディン（ヴェニアミン・テン訳、中山大将監修）「サハリン朝鮮人研究の資料と研究：露日韓英各国語の研究状況」『境界研究』第 13 号、2023 年 3 月 31 日。
- 【論集】中山大将「樺太日本人慰霊碑はなぜ建立できたのか：日ソ戦後サハリンにおける樺太旧住民慰霊碑等建立のマイクロヒストリー」王柳蘭、山田孝子編『マイクロヒストリーから読む越境の動態』国際書院、2023 年 3 月 31 日。
- 【雑誌】中山大将「食の〈質〉的貧困と合理性：樺太米食撤廃論から考える食の〈自由〉と食の〈正義〉」『農業史研究』第 57 号、2023 年 3 月。
- 【雑誌】中山大将「境界地域を問いつける引揚者：工藤信彦『樺太覚書』とサハリン島近現代史」『民衆史研究』第 105 号、2023 年 5 月 20 日。
- 【雑誌】中山大将「書評と紹介 加藤絢子著『帝国法制秩序と樺太先住民：植民地法における「日本国民」の定義』」『日本歴史』第 901 号、2023 年 6 月。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【雑誌】木村由美、西崎純代「『引揚者在外事実調査票』の資料紹介：歴史資料としての意義とデータ活用の可能性」『立教経済学研究』第 77 巻第 2024 年号、2023 年 10 月 20 日。
- 【論集】エドワルド・バールィシェフ「革命・内戦期の北サハリンとイヴァン・スタヘーエフ商会の活動」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【著編】ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【論集】Svetlana Paichadze, "Individual multiethnic repatriation from the Soviet Union," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【論集】Svetlana Paichadze and Jeffry Gayman, "Border, Indigenous Peoples, self-identification: contested memory as seen in the social activities of Ainu, Uilta and Nivkh," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【論集】早川尚志「小樽から見たオーロラと太陽地球環境」醍醐龍馬『小樽学：港町から地域を考える』小樽商科大学出版会、2023 年 3 月 31 日。
- 【著編】原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】原暉之、兎内勇津流「本帝国膨張と縮小のモデルとしての北サハリン占領」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論集】原暉之「V 字回復の先を模索するニコラエフスク：尼港事件の社会的背景」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【雑誌】日座久美子「『樺太・薩哈連(サガレン)』(北樺太)絵葉書アルバム帳』から日本近代期のサハリン島を探る」『非文字資料研究センター News Letter』第 49 号、2023 年 3 月 20 日。
- 【論集】Mooam Hyun, "The 'delayed "repatriation"' of Japanese women in Korea: the beginning of the return policy in postwar Japan," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【論集】Takefumi Hirai, "Industry-induced movements of people and connections among repatriates from the Karafuto coal industry," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【雑誌】藤田祐史「ソ連解体後の樺太文学」『金城日本語日本文化』第 99 号、2023 年 3 月。

- 【著編】麓慎一『一九世紀後半における国際関係の変容と国境の形成：琉球・樺太・千島・「竹島」・小笠原』山川出版社、2023 年 5 月 30 日。
- 【論集】ジョナサン・ブル(訳：白木沢旭児、兎内勇津流)「戦後初期の日本における満洲引揚者像と樺太住民の引揚」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。
- 【論集】Jonathan Bull, "Japanese-language historiography about end of empire migration: revising the extruded history of repatriation and hikiagesha," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【著編】ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【雑誌】牧野竜二「樺太の記憶伝承プロジェクトが及ぼした大学生の態度変容に関する考察」『政策文化総合研究所年報』第 26 号、2023 年 9 月 30 日。
- 【著編】増田宏『樺太・北海道・上信越の山』白山書房、2023 年 8 月。
- 【雑誌】松本和子、高田三枝子、奥村晶子、吉田さち「見かけ上の時間を用いた樺太日本語の研究：コロニアル・コイネーの形成と変容」『方言の研究』第 9 号、2023 年 7 月。
- 【論集】三木理史「北サハリン占領と島内・外の交通体系：サハリン島の一島支配と輸送」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【雑誌】宮川達二「小説時評(第 22 回)宮沢賢治：樺太への旅」『コールサック』第 114 号、2023 年 6 月。
- 【論集】Tessa Morris-Suzuki, "Travel, forced movement, 'repatriation': multiple mobilities in the history of the Indigenous Peoples of Sakhalin and the Kuril Islands," ed. Svetlana Paichadze, Jonathan Bull, *End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home*, Routledge, 2023 年 4 月 28 日。
- 【資料】薮下紘一『ある言語研究者の思い出話：樺太の少年、ヨーロッパへ：樺太、北海道、広島、ドイツ、スウェーデン-いま 80 年の旅路を振り返る：人は学びつづけなければならない。まちがいない人生を歩むために。』小松書館、2023 年 6 月。
- 【資料】山田祥子(採録・訳注)『エウエンキー語音声資料』(北方言語研究別冊 1/ツングース言語文化論集 71)富山大学人文学部、2023 年 3 月 20 日。
- 【雑誌】山田祥子「〈資料紹介〉池上文庫公開シリーズ 2: 北海道立北方民族博物館が所蔵する池上二良氏の音声資料(引照付きリスト)」『北海道立北方民族博物館研究紀要』第 32 号、2023 年 3 月 24 日。
- 【雑誌】山田祥子「ウイльта語北方言テキスト：お母さんのこと」『北海道言語文化研究』第 21 号、2023 年 3 月 31 日。
- 【論集】T. Tsumagari & Y. Yamada, "Uilta," eds. A. Vovin, J. A. Alonso de la Fuente, & J. Janhunen, *The Tungusic Languages*, Routledge, 2023 年 8 月。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【雑誌】山本泰照「樺太移住・引揚者の生活：珍内町真宗大谷派布教所の生活を例として」『長野県民俗の会会報』第 46 号、2023 年 12 月。
- 【著編】吉原裕『間宮林蔵と偽書：通航一覧と東韃紀行とサンタンコエ』吉原裕、2023 年 5 月。
- 【資料】『明治大正期帝国信用録 第 3 期第 5 巻明治 45 年（下）』クロスカルチャー出版、2023 年 6 月。
- 【雑誌】「樺太派兵の風説をめぐって：明治 7 年・外務書柯太境界談判関係書から」『屯田』第 74 号、2023 年 11 月。

\*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

## —研究プロジェクト—

(代表者五十音順)

- [最終]浅倉有子(上越教育大学)「モノ資料からみる近代アイヌ社会と文化」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2021-2023 年度。
- [最終]小川正人(北海道博物館)「近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2023 年度。
- [最終]加藤絢子(九州大学)「帝国臣民になることの意：漁業権と日本国籍付与をめぐる樺太先住民族の政治的活動」科学研究費補助金・若手研究、2020-2023 年度。
- [最終]佐藤丈寛(金沢大学)「古代ゲノム解析による東アジア：シベリア境界領域における人類集団の変遷の解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2023 年度。
- [継続]澤田和彦(埼玉大学)「近代日露交流史の諸問題に関する実証的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。
- [最終]鈴木琢也(北海道博物館)「北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2023 年度。
- [継続]醍醐龍馬(小樽商科大学)「近代日露関係の平等性に関する研究：ロシア側未刊行史料からのアプローチ」科学研究費補助金・挑戦的研究(萌芽)、2022-2024 年度。
- [新規]醍醐龍馬(大阪大学)「日露国境の変遷とその影響に関する学際的研究：「歴史国境学」創出への挑戦」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2023-2025 年度。
- [最終]竹野学(北海商科大学)「移住植民地樺太の工業化と都市形成に関する研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2021-2023 年度。
- [新規]兎内勇津流(北海道大学)「シベリア出兵の「現場」と日露両国の外交構想」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2023-2026 年度。
- [最終]中村和之(函館工業高等専門学校)「サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2020-2023 年度。
- [新規]中山大将(釧路公立大学)「旧日本帝国圏における残留の統合的研究：冷戦期日本における在外国民の国民再編問題」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2023-2025 年度。
- [継続]ノヴァコフスキ カロル(東北公益文科大学)「言語の記録保存のための音声認識技術の研究：樺太アイヌ語に着目して」科学研究費補助金・若手研究、2022-2026 年度。
- [継続]福田正宏(東京大学)「日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明」科学研究費補助金・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、2021-2025 年度。
- [継続]福田正宏(東京大学)「宗谷海峡域における新石器/縄文時代生活史の実態解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2022-2025 年度。
- [新規]山田祥子(室蘭工業大学)「ウイльта語の統合的な記録・記述と資料化：音声・グロス・訳付き資料の作成と公開」科学研究費補助金・研究活動スタート支援、2023-2024 年度。

\* 掲載している研究プロジェクトは、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

[継続]吉田さち(跡見学園女子大学)「在日コリアンおよび在樺コリアンにおける言語接触・方言接触に関する社会言語学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。

[継続]BAEK SANGYUB(室蘭工業大学)「サハリンエウエンキ語の記述:サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」科学研究費補助金・若手研究、2021-2025 年度。

= = = = =

## サハリン樺太史研究年報 2023 年

発行日：2025 年 06 月 04 日

編集者：中山大将、張間丈

発行者：北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室

<https://locaregionaleconomicichistory.econ.hokudai.ac.jp/>

= = = = =